

## 第 19 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2021)参加報告

第 19 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム (2021)

女性研究者・技術者を育む土壌を耕し 意思決定の場を目指す人材を育成する  
～より多くの女性研究者・技術者を意思決定の場へ～

【開催日】 2021 年 10 月 9 日(土) 10:00～17:45

【会 場】 オンライン開催

【報告者】 岩部 美紀

【出席者】 山本 眞由美 (委員長)、片井 みゆき (関東甲信越支部)、  
鞆嶋 有紀 (中国支部)、吉田 守美子 (四国支部)、岩部 美紀 (関東甲信越支部)

第 19 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム (2021) が昨年につき、オンライン形式で開催されました。小池 百合子氏 (東京都知事) からのビデオメッセージによる“日本人女性初のノーベル賞受賞者が一日も早くうまれるよう” 期待が込められた祝辞から始まり、講演では、様々な組織のトップをお務めの神保 睦子先生(大同大学学長)「実学主義による女性技術者の育成」、梶原 ゆみ子氏(内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員、富士通株式会社 執行役員常務)「イノベーションの源泉となるダイバーシティ&インクルージョンについて」、田島 節子先生(日本物理学会 会長、大阪大学 名誉教授)「より多くの女性研究者を上位職へ導くために」から、現状や独自の取り組みについて、それぞれのご体験やご経験を踏まえながらご紹介頂きました。

午後は、林 伴子氏(内閣府男女共同参画局長)、千原 由幸氏(文部科学省 科学技術・学術政策局長)より、内閣府および文部科学省からの女性活躍のための具体的な数値目標の提示など力強い方針がご挨拶の中で紹介されました。政府の取組として、斉藤 卓也氏(文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課課長)「科学技術・学術分野における女性の活躍促進」からは、女性研究者の裾野拡大や上位職の登用促進に向けた文部科学省の取組、川村 美穂氏(経済産業省経済産業政策局経済社会政策室長)「より多くの女性の活躍を目指して」からは、デジタル分野の取組、ダイバーシティ経営の普及など経済産業省の取組などが基調講演の中で紹介されました。佐々木 成江先生(名古屋大学大学院 理学研究科准教授、お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション研究所、男女共同参画学協会連絡会 提言要望 WG)「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画への要望活動から見えた課題」からは、女性活躍に関する詳細なデータ解析および現状把握の重要性について述べられました。ネヴニハル・エルドوغان先生(トルココジャエリ大学元建築学部長)「トルコに見る女性リーダーの現状と育て方」からは、女性研究者の活躍がめざましいトルコにおいて、政府主導の女性活躍のための政策が重要であったが、それは長い歴史の賜物であり、さらなる継続的推進が望まれることが紹介されました。基調講演では、様々な立場からの提言や環境整備、活動やその波及効果などについて紹介されました。

最後にパネル討論「海外の先進事例から見る日本の課題と提言」が行われました。原田

敬美氏(男女共同参画学協会連絡会 理事、元東京都港区長)がコーディネーターを務められ、海外から、パールエリック・ヘーグベリ氏(駐日スウェーデン大使)、ペッカ・オルパナ氏(駐日フィンランド大使)、サラ・ホワイティング先生(ハーバード大学建築大学院長)によるビデオメッセージが寄せられ、神保 睦子先生、ネヴニハル・エルドーガン先生、佐々木成江先生、前田 秀一先生(日本技術士会理事、東海大学工学部教授)らのパネリストにより、男女共同参画における日本の課題と提言について、活気に溢れたパネル討論が行われました。

第 19 期男女共同参画学協会連絡会・幹事学会・日本技術士会の武井 加代子先生、笹尾圭哉子先生から本シンポジウムのまとめが報告され、第 20 期幹事学会・日本生物物理学会の原田 慶恵先生から今後の抱負などについてご挨拶された後、貴重な統計データとなり、政策決定に反映される大規模アンケートの実施(114 学協会、のべ 57 万人対象)について、石田 佳子先生より協力依頼がありました。

オンライン開催の利点を活かした 300 名をこえる参加者のご協力などにより、登壇者の活発な意見が交わされた、有意義かつ実り多き本シンポジウムは、成功裏に終了いたしました。

男女共同参画の推進は、全ての方が挑戦し活躍できる、全ての才能が活用される社会の実現を目指した活動の一環ではないかと考えます。研究者、医師、研究者&医師としての日々は 20 代からスタートしますが、どの年代も全ての方が様々な苦労や困難、悩みを抱えながらも、他者との共感や協力、助言や忠告、提案や支援、応援などが大きな原動力となり、精一杯頑張っているのではないかと思います。本シンポジウムの参加は、よりよい環境整備を進め、研究のさらなる推進はもとより、真剣ながらも楽しく心温かい研究・医者生活が送れるよう、そして、内分泌学、医学、医療、サイエンスのさらなる発展に繋がるよう、私自身も全力を尽くしていきたいと心新たに「きっかけ」となりました。

さいごに、男女共同参画に関心のある方もない方も、例えば、「男女共同参画学協会連絡会」のホームページを訪れたり、JES We Can 活動に参加を希望して頂いたり、それぞれの方の何かの「きっかけ」となればと思います。